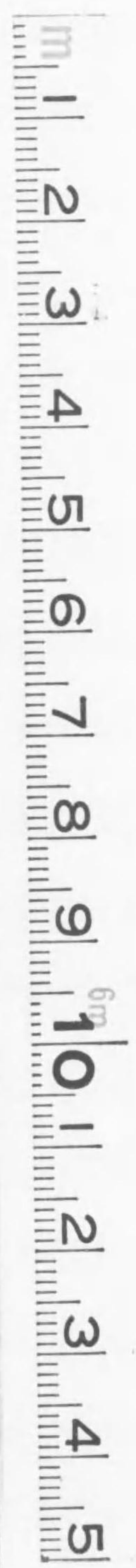


特 265

959

うき  
ゆわ  
か  
つ  
い  
らん  
か  
と  
たん  
か  
き  
つ  
み  
た  
い



始



特265  
959

だんじり

からすのいえ

はん

うた 夕ヶダシキ かく



ひとわみんぶしじんだ

だんぱ





ひとわ  
ゆく  
のだ



おーい!

すゞめの  
すずた

—ほんとは あれんぞ  
りるのだ

ちゅーと

たゞ それだけ

—すゞめの  
こしら  
ば

カえん ぞきた

ズニダ

ズんしダ

いばっ

のりニダ

しちめし

そえだ だくあん

あ、

きれいだ  
こと



こゝろ はんすと！

くえふくて

くえふくて

うどむも すうた！

ほーきん

あゝ

ひとあき

うとよ

ゆーぐれ

から、らあ、  
わしの ふきたい  
ら、ち  
その ま、子  
とーがなる

ちきやー子むおっ  
ぼく  
しよーべん  
かけたものだ

だんごんま

まえくねてるるだち  
たのしみま

のんご

らじお!

あの

ぶるじやあくさい

こえを

たちきれ!

し  
び  
し  
ん  
が  
ら  
し

あ  
め  
の  
い  
し

ま  
ご  
と  
あ  
ら  
び  
の

る  
よ  
よ  
き  
ん  
く

ち  
ゆ  
し  
と

あ  
い  
た  
が

いのちわつよいのだ

じんぼーだの しえたげられる

だあつて

たごめ ~~が~~すれつきのずーち

三十二ねんまえよはだかで うまねたんだ

あまよがえる

つゆよのたまよみつあえ

きえはく

まのぐ

ふくちりがふく

ばねいしよのしらはふわ

ゆつもぎのふり

Handwritten Japanese text, likely a signature or name, written in cursive style. The characters are arranged in a roughly triangular shape, starting from the top right and moving towards the bottom left. The text appears to be "山崎 隆夫" (Yamazaki Takuo).

Handwritten Japanese text, likely a signature or name, written in cursive style. The characters are arranged in a vertical line, starting from the top right and moving towards the bottom left. The text appears to be "山崎 隆夫" (Yamazaki Takuo).





木ぶとむし

きよねんのおきやー

あすくれえ

くれよ

二のがオー!

また

なまざつま

木じつとる!

せみしぐれ

まよすや〜と

くさひま

ねえ

りる

おとっちゃんの

ふとこちぐあいに

しらふい

のだ

よもぎのしほをくまのまきかざ

よもぎのしほをくまのまきかざ

ぬん！ぬんぢやー！

ぢぢぢぢぢぢ

へいへいへい

あーあーあー

あー！

ぢぢぢぢのだんすだ

とくくくく

だーだーだー

くちのたま

... たまりぐい

ヨ

ふかす

もつしも

もつしも

ふあ

きよーわ  
さむいから  
おうどんよ  
しましよーね

どつ〜らきうて  
あぐらからた

このてまめえ

ほんとおきうせえ

はたか子やあそわえ

ふたみんだかたはしありなうあふ

くつじたしゆせん  
すばるあふる

この一やばよ  
ふめくじと  
うまのれへ  
しあわせものよ

ふきさしふい！  
そくねむるる！



Handwritten Japanese text in cursive style, oriented vertically on the left page. The characters are difficult to decipher but appear to be a personal note or signature.

Handwritten Japanese text in cursive style, oriented vertically on the right page. The characters are difficult to decipher but appear to be a personal note or signature.

あのもみの  
よーな  
あへ



あへ  
あへ  
あへ  
あへ

ほしも かるほも

いぬも どりほも

うっしなた子

やみの あか

ラスコルニコフ

まくらもとの ほん

いつ たべる

ほの  
か子

よ  
あかりと

あわ

くち子

はこぶ

あしな

あ  
あ

あ  
あ

あ  
あ

さげのまのぬ

つかりでかった

みかん

よむかんぬよ

あねあねと

ああじゆうあら

どろろえんぞ

いえん!

ヒネヨシボ いった  
どこえ 子ガたつて  
わしの くまじや  
と

ふんぞりかえつて ねて みたところ  
だれも こまらぬ

げんきゆーわ

いらん!

かっとなんか

きんえみんい

あめ!

あつとあつと  
なつとあつと  
あつとあつと  
あつとあつと

ゆき  
かぶつえ  
べ  
つみ  
はつ  
き

に  
れが  
はら  
わす  
いら  
よ  
木

あめが  
うら  
ちっ  
ちやい  
はもん  
まろき  
まろた  
らで  
かえろ



しーい<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>  
な<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>ど<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>ー<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>  
よ<sup>あ</sup>こ<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>え<sup>あ</sup>  
な<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>

ま<sup>あ</sup>ん<sup>あ</sup>ぼ<sup>あ</sup>で<sup>あ</sup>  
で<sup>あ</sup>き<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>は<sup>あ</sup>ず<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>め<sup>あ</sup>  
ー<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>ふ<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>え<sup>あ</sup>  
め<sup>あ</sup>ー<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>  
は<sup>あ</sup>こ<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>

たけのゆきはめじろをほつ  
すぐかこもどり  
またで、ゆく

はこびらぐぞわ  
ふいー!

おーうずまき  
たのた  
!

あつちのち  
あつちのち  
あつちのち  
あつちのち  
あつちのち  
あつちのち

あつちのち  
あつちのち  
あつちのち  
あつちのち  
あつちのち  
あつちのち

ヤンキのこころ

こころ

ヤンキのこころ

きく

とび

ゆきのの

した

ゆきののチグブえ

ねむりよしま

いたひと

うむっばとリがたまごうむのたす  
わるかねえやふり？

あや わかしく  
うまうれしく  
やつと  
まろしく

くさも きも おきありー！  
ううー！ たいちが ふくれて  
きたわー！

すきーして <sup>ほん</sup>やる <sup>あ</sup>のくも <sup>ま</sup>のやが  
いっほい！ はるだ！

どーだ、あのかげろのますえ  
はきすうそやがるはるかぜと  
みろ！

よーよ、はるだ！  
うまぶよ、うまぶよ、うまぶよ  
ものあ！

どーとま  
どーとま

そくらわ

もげんぶの  
か

ほ。ちや

おへたの

まわり

た、いへ  
や



いざいざおれ

かわのみずのいざ

—みそいたら—

よらよ

あ—た

たいよ—のまえよ

わしだやの

かくめいも

す

マルビル  
たつた やつ

きんちがい  
だつたのさね

お  
うめぼし  
きりん  
とつよ  
いふも  
たべる

おーがらが  
せいえきせ  
はつやす  
この  
ゆきんだ

おーがらが  
せいえきせ  
はつやす  
この  
ゆきんだ

さゝ 子と ぼほ  
さゝ 子と ぼほ  
さゝ 子と ぼほ  
さゝ 子と ぼほ  
さゝ 子と ぼほ

すゝめの子みずあび  
させよーとて  
くさまおーりあつた  
あかあらぶ

キリシタンキリシタンキリシタン

キリシタンキリシタンキリシタン

こども

こども

ちびたげたわ

さび〜  
ふー

ぽーんと

わが

が

ちびた

あ

おつぎんま







うぐらすよのはねと

しほきよしほみとせ

まがしほりと

ぬら〜

のあめ

よよーぼーとふたりで

さげまよいてたそ

みらり〜と

わたれるヨ

あらば

えんちちやん

いなたまのせつく

おとあがりよ

うめのまおらが

みちえりあつた

あゝ せうきんー!

せうきんの かんけいー!

かんけいよ

うちのめさされても

うちのめさされても

うぐささくんで

みよきしと

でんきうたちゅうりつぷの

しんめを

じつと

このらまえそりたコ

こぶさけ

まっかなちしおま

くむなとよ

さかづきいお

これ

ぶしはみはふ



おれわ  
ほんと

きせるさはたく

子よーぼーわ

なばで

もぐ

さつまを

たづるの

四十取んも

つれそそきた

ばばよ

きよー

いあれそ

うめぼしじやいの

ふみだ

だがおみさをめあつよ  
しきえりるのぞしほ

おぼからふふのしき

あつまをせんか

もお げよーか

まだ であれぬかと

まのどぐちから

やんちやこぼすめ

あめ みえやがる

しきらめえ

ヨのかけらきと

かんがえんたら

いさそめく

きがするもつか

おちのえん

あゝそーじや

さけわおくととも

あわがふる

ぬれえ

はあみと

しやれよーわらあ

みのと きいた

つもり子おつて

ぬれおがら

ふとちでしと

はふり

したゆく

どうのうえさ

はふと あめとよ

あはやく

はばおゆくわえ

あといふかり



おももちい  
ああですふーと

あのみ  
みわの

いだらちん

いよのめも

いいだしえーふ

いももたらべ

みずのんでたが

よのあかまや

かくべつちんみも

おいものだふー

からころと

かえるがふくらむ

きんせば

また

たのしみ

わがよと

おもわれもしく

いはるものあめは

あまをかんじてが

まーちやんが

たのこ

たのこ

きしよねえ

うらとり な本れを

きりくいた

うらとり

くまも

おせくいた

さげ子くも

くも子すのれん

すのれんの は赤子

かえろが

とまのうそいた

ばいせんのか

あつゝせらん

しやぬりはた

こぶりこぶり

かえつてきた

ゆーやみの おか子

たぶんよう

こもりうたよ

まだく

あきえる

わくで

あつた

ちびだりあ

ぼんくだりあ

おんぞぎれ

さるえくらさえたら

いゝゆだ

ちびだのあからあ

はぶのしたよ

かあらいげたあ

ぼんくだりあ

あ

みだか

まどりのコよ

エイちゃん あらざと

つまねきくしたら

ああん〜

だめよーだめよー  
と

まわりのまのえすぞ

ぶつとへをしたら

くつくと いったら

わらった

めだね

まん

やしの

いだらうさるちちの

コわ

あつさりと

五つのはる

し

ぬ

りん

くとある

ふーりんわ

うれしく

うれしく

もお

たまからぬ

よーふ





ねられぬよる

またうかく

なう

よわみぞ

つきよふがあつる

ゆりの

しらばあ

はぎのハよ

そのハほどの

たまむしが

とまふそいるんだ

ちよこふん

ん

もちろしと

もちろしと  
かえろしと

かえろしと

むねのどろろ

あぞろ

ゆもあがり

あんふのがかきあぞろ

こども

こどもあがら

そのぬおがみ

すばらしい

ほいおきんよだ

いあぐりあ

あすあんぐり

くち

あけさるだらり

すーこと

いとくもが

おりきいた

あきよふか

まっあことーしーと

こゝろぎが

ちちち

ちちちと

ふくうちま

ぎのほわおれや

ちつてゆくのだ

こゝろくと

はりぞくいそ

かしのこを

かえそかえそ

すの

あかよ

つむじ

はら〜と

おちばはあめが

あめが

ふ〜あ〜

ちこびくあうて

スのおあえかえろ

かえろ

スのえとせと

と〜つていつた

ものが

ある

そ〜つとはいで、

あたり

うかゞう

いしかずむ  
おのはじよし  
のちらほあ

とせんま  
おらば  
てびま

りた  
みとつ  
もらおあ

せぬか  
うりわ  
えが  
かしのと

こげの

よわ子

せんか  
が

ち  
る

かるが

ゆえよ

お

ちつまが

いもが

かくづつよ

い

どんぐりと

さつまいもと

よんぼよと

ごちやくもつて

あそびよきたコ





ふとーい もりのうちまが やつてきて  
いそや ちびくちやるめらふいたが

ちよいと こお つくえのうえよ つみあげた  
すつまいもの あかかい、ことわ



も下んふ ましら からすあ  
いほつり いほつほに  
アいは つくのこ  
たつゆ

アちおのいほ かりんど  
アつふ 本ほか、さうのそ  
かりんど  
さむね

きよーあざりや  
おろかぬだふーと  
とりあはれた  
くつをふがめて

はふみずする

なぞかこおノもも  
やまももすのせん  
はななが

くつをふがめて

かどをゆく  
ひとりひとりの  
たのびたあそびが  
こころで  
まので  
なつかしい

つぎはぎいのきねも  
たのびたあそび  
おこころ  
たのびたあそび  
ねてしまつた

たれもかたも

みやこえ みやこえと

あつまつて

たづ きのまつて

おんざり

らとらと

わつちらのせんがが

だいく せんががした

ねんぐわ

しめて

いくら子

なうりまのす

?

ゆききのよる  
ほりぐたべる  
このあじがたくあんの  
たしや子  
たよかせやがるんだ

あれたちりも  
ほとけがわかる  
みだめのすま  
はたなさい  
ごしがさしとる

やみくもおん  
じやん  
くわく  
よ

ひとまぶす

とまぶす

せりぞろい

せり

ほろけい

すくで

あめんだ

い

た

あ

ら

ま



やがてしぬひとのさだめ  
メもとどろろ

おもひみだぶつ  
とふええみるかふ

ぼろくのぼん  
たべかけてほりすいた

ひろつてそれから  
おとあしくたべた

かぶとむしの  
おーぶ  
きみのつらがまえが  
みえるよーだよと

かいてある

せんげん

- 一、いわゆる うた、はいくとゆうなまえにとらわれない。
- 一、ジューリツとって、しかもその ちよーしをおもんする(むしろいろいろ ひねくる) やからがあるが、ぼくらわ そんな「ジュー」に、こだわらない。
- 一、ないよーそなれば かたちわ しぜんにと、なう。
- 一、たゞ かんじよーの ゆらめくまゝを……そのまゝに。
- 一、漢字をもちいなければ、そのいみがわからないとゆうよーな、そんな ことばわ つかわない。

## おしらせ

タケダシキ

わたくしわ「うたのぎっし」をだしています。「からす」といいます。そしてわたくしのいおりを【からすのいえ】とよびます。いえにいんさつのせつびをしていて、いくらぎっしをはっこーしても、けっしてへこたれません。せんく〜ごくりよくでやっています。——すでに**三十二**ゴをだしました。

わたくしわ、ごらんのとーりの**かなもじしゆぎしゃ**です。しかしだれにもこの**しゆぎ**をきょーせいするものでわありません。たゞ〜じぶんの**ぎっし**を、じぶんの**しゆぎ**のとーり、**かなもじ**ばかりでいんさつするにすぎません。

すなわちわたくしわじぶんの**ぎっし**「からす」で、**かなもじしゆぎ**のうんごーをしているのでわなくて、

じどつわ、うたのうんごーをしているのであります。ごんなうんごーか？

それわ、この**かしゅー**のうたのよーなうたをつくること  
のうんごーです。

うたとゆうよりも、みじかい一ぎょーの**シ**であります。

うたもはいくもなにもくそもあるものか！とゆうのです。

そんな**がいねんわぶ**つつぶしてしまえ！とゆうのです。

そして、**ふんごし**一つのさっぱりしたたいどにかえろー、と  
ゆうのです。

すくなくとも、いちおーわ、うた・はいくわ、このすっぱだかに  
ならなければだめだ、とおもうのです。

いつまでマンニョーばりコキンばりでもないじゃありませんか！  
さもあらばあれ、わたくしわやがてきたるこれのひがんわしり  
ません。たゞゆいぶつべんしよーほーが、「セイ」から「ハン」を  
まねき、それわやがて「ゴー」にいたることをやくそくしてく  
れているのを、ひそかにしんするのであります。

しよくん！ わたくしのぎっし「からす」にきたれ！

「からす」わしんしん・きえいのしよくんを、もろてひろげてまっ  
ている。また、ざいらいのいわゆるうた・はいくのはなぞので

これまで一どもかんかをうけたことのないものを、もっとも  
かんげいする。それから、がんめい・ころーなそのざいらいの  
かだん・はいだんをだっしゅつしてきたるものをも、なんでなん  
でかんげいせずにいられよー。

きたれ、しよくん！ きたれ、しよくん！ わが「からす」に！

あたらしくトーコーするものわ、ぎっしだいわ三かげついりま  
せん。それからつゞいてトーコーするならば、四かげつめから  
ぎっしだい(二十せん)をいれ、ばよろしい。そのほかにカイヒ  
などわいりません。

わたくしがこのかしゅーをはっこーしたのわ、なにもかしゅー

をだしたいからだしたのでわなく、こゝにこの「おしらせ」を  
いんさつして、『からす』とゆうざつしのぞんざいをしよくに  
しらせたいばかりに、このかしゅーをだしたのです。

つまり、しんぶんなどえこーこくする、そんなたいきんがない。  
しかし、ちーさいとわいえ、せきばんもかつばんも、そのきかい  
をうちにそなえているから、しんぶんにかーこくするしほんわ  
ないかわり、こーしていくらでもいんさつして、しよくんのテ  
につたえよー、とするのです。

だからかみわこんなきたないはどろんし。でもでも、これの  
いんさつわせきばんずりです。わたくしのうでがそれをした。  
ほくわ、つねにあらゆるげいじゆつのゆくてをじゃまするあの

だいしほんかを、ほくのげいじゆつのゆくてだけにおいてわ、  
それをけちらしてすゝんでゆくつもりなのです。

せつたいにしほんのまえにあたまをさげない。そしてほくに  
あたえられたしめい、——うた・はいくのかくめいを、なしどげ  
よーとしているものです。

しよくん、きたれ！ しよくん、きたれ！ わが「からす」に！

トーキョー スギナミ カミタカイド二ノ五〇〇

からすのいえ

タケダシキ

シヨールワ 九、九、二三 インサツ ノーホン  
九、九、二六 ハツコー

【テイカ】 三十セン

ヒツコー チヨサク タケダ シキ

トーキョー スギナミ カミタカイド ニノ五〇〇

インサツ ハツコー からのいえ

タケダイツジロ

終

あわ！  
あつちとあつち  
あつち